

令和2年度 奈良市立三碓幼稚園 研究実践概要

園長名 藤次 啓順
全園児数 9名

1. 研究主題 「豊かな心をもちいきいきと活動する幼児の育成」
—身近な環境（人・もの・こと）とのかかわりを通して—

2. 研究年度 初年度

3. 研究主題設定理由

子ども達が保育者や友達と一緒に生活する中で色々な環境にであって行く。その中で子どもが興味あるものや、“おもしろい” “もっとやってみたい” と子どもが感じた瞬間をとらえその思いを実現させるための環境（人・もの・こと）を整えることが子どもの主体性につながりいきいき活動する姿に表れると考える。また、今年度は複式学級でもある為、異年齢児の人との関わりは大きな要素を占める。そのため、環境の在り方や、保育者の援助の仕方を考えていくためにこの主題を設定した。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

・遊びの中で主体的に人・もの・ことに関わり、自ら遊びを創りだし、意欲的に活動する力を育てる。

②研究の重点

- ・人・もの・こととのかかわりを通していきいきと活動するする力を育てるための環境構成や援助の在り方を探る
- ・異年齢との関りが深まる保育内容の充実に努める。
- ・日々の保育を振り返り、個々の内面理解に努め一人一人の発達に応じた援助を行う。

③活動の方法

【ずぶ濡れの水遊び】 4, 5歳児

夏の例年通りのプール遊びが中止になり、密を避けるため園庭で様々な水遊びの場を工夫した。5歳児がジャングルジムの上からトイとホースを使って水路をつくっていると、4歳児が興味を持ち、「貸して」と声を掛けた。5歳児のA児が「これはちょっと難しいからあかんで」と返事をしたが5歳児のB児が「やり方を教えてあげたらいいんちゃう？」と方法を教えていた。しばらく、どうなるかと様子を見守ることにしたが、6月から登園し始めたばかりの4歳児にはトイにホースで水を流すのは難しく、水路が崩れて周りの遊んでい



る子ども達はずぶ濡れになってしまった。5歳児も想定外のずぶ濡れに楽しくなり、それがきっかけで今度は掛け合いが始まった。「ぼくは濡れたくない」と主張する友達に、5歳児が「じゃあ、水がかからない場所もつくりよう」と考えた。保育者が透明の大きなビニールを用意すると、「これいいやん！ここに貼ろう！」とジャングルジムの一部にみんなでガムテープで貼り付けた。水が苦手な子どもは、ビニールのカーテンの向こう側に立つが、思いっきり水をかけられても濡れることもなく、より水の勢いを楽しむ事ができ、「さっきより面白くなったな」水遊びを満喫していた。

<評価>

少人数の複式学級で6月から始まった新年度は、4歳児、5歳児の子ども達の成長に大きな差があり最初の方は、お互いに戸惑っている様子であったが、心動かす楽しい経験をきっかけに、4歳児も自分のやりたい事や自分の思いを話せるようになってきた。5歳児は、思い通りにいかなかったことも友達の思いを受けいれながら譲ったり許したりする事で、さらに、新たな遊びを生み出し工夫しながら遊びに変えていく姿がみられた。

【ダンスの振付は自分で考える！】4歳児、5歳児

たくさんの物語を読んだ中からみんなで選んだ「孫悟空」のお話を2月の生活発表会で演じることになった。その中で踊ろうという事になった曲を聞きながら「こんな振付があるみたいだけど、どう？」と既成の振付を伝えると、「そんな振付いややなあ。自分で考えたいわ」と5歳児が答えた。「そうやなあ、もっとかっこいいのが浮かんでるねん。」と、さらに別の5歳児が答えると、4歳児が「難しいのは覚えられない」と戸惑っていた。そこで「そしたらみんなができる振付やな。わかった！じゃあ最初から曲を掛けて」と、5歳児みんなは、4歳児に「こんなんはできる？」と確認しながら振り付けを考え始めた。「発表会まであと何日だよ。」と、日にちを伝えると、毎朝みんなが登園すると、保育室で円になって相談しながら丸ごと1曲の振付を考えることができた。その経験から、発表会後もさらにアレンジを加え同じ曲の振り付けを友達と一緒に考え楽しんでいた。



<評価>

劇の題材を決めるところから、内容、曲の振り付けまで、話し合いを行い時間をかけて取り組んだ。みんながやりたいと思ったお話を選んだ事や、振り付けを任せられた事はいきいきと活動する姿に繋がった。また、全園児9人の少人数のため、役割が数多くあったが、自分で決め、実現できる喜びが、“もっとやりたい”という気持ちにつながったのではないかと。今までやったことがないことに挑戦して1曲丸ごと振付を考えたと、「孫悟空」の劇遊びがより楽しくなった。

5 研究の成果

・自分の「やりたい」と思った遊び、次は「こうしたい」と思った遊びに対し、繰り返してできる十分な時間と環境が必要である。また、保育者が用意した環境だけではなく自ら選択で

き、自分で決める事(自己決定)の出来る環境が、より豊かな発想を生み出し、主体的に動く原動力になると思われる。

・4、5歳児の混合クラスでは、4歳児はあこがれの気持ちを持ち、5歳児は4歳児に優しくかかわる中で相手に対する思いやりの心を育み、年長児としての自覚と自信を持ち、刺激し合いお互いに成長する姿がみられた。保育者や友達にお互いの良さを認められることで、自分の居場所を感じる事ができる。その安心感が自信となり、自己を発揮させ、いきいきと活動する姿につながった。

・今年度は園児の人数も少ない為、保育者が、モデルになったり、子どもの目線に合わせ子どもと一緒に考えたり、楽しんだりすることが多かった。共に過ごす事で、子どもが「何を面白がっているのか?」「どこでつまづいているのか」が見取りやすく、その時々に応じた支援や環境を整える事ができた。その事で、遊びがより楽しく、「次はこうしたい」気持ちによりそい意欲的に活動する姿につながった。

6. 今後の課題

・来年度は園児が2名になり、集団生活は経験できないが、引き続き子どもの興味や関心を丁寧に見取り、子どもが発達に必要な経験を積み重ねていけるよう環境を構成し、保育者の援助の在り方を探っていききたい。